

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

佐倉の点二つ----- 大場 博子 地域の一員として----- 布施 鉄男
食改推進員の活動に参加して---- 松村 靖 下町糸ちゃん言いたい放題----- 岩井 糸子

身だしなみの変化

荒井 賢一郎

現役を退き、スーツ・ネクタイのスタイルからカジユアルスタイルが毎日の普段着となった私にとって、若者から一部高齢者に至るまで、最近のカジュアル時着用シャツ類(Yシャツ・ポロシャツ・Tシャツ等)の着こなしには、かなりの違和感を覚えるのである。上着のシャツの裾をズボンに納めず、外に出してゆとり感を与えるあの着こなしである。

私の子供時代、学生服のYシャツはもちろん、気軽に寛ぐ服装の際にも、上着のシャツの裾をズボンの外に出すことは、それこそだらしなない格好で「身だしなみ」に反すると教えられたせい、いや窮屈な気がするもの、今でも自然とシャツの裾はズボンに入れてしまう。中・高校時代には、そのズボンも「寝押し」

といって布団の下に敷いて寝て、しわを伸ばし折り目をつけていた。

そんな昭和30〜40年代の躰がいわば習慣となっている私だけに、消費生活が成熟・多様化した現代にあっても、シャツの裾の外だしを、粋でおしゃれな着こなしとは思えず、なんともなじめない。むしろ若者では昔の着こなしが野暮つたいとみなされるようだが、そんな感覚にもついていけない。やはり人間の出来が古いのだろう。

ジーンズをはくのが日常感覚になつていく時代には、身だしなみの物差しが大きく変化するのはむしろ不思議ではない。流行激しいファッションの流れからすると、貧しい時代の旧来の身だしなみの基準を頑なに遵守すれば、時代遅れと批判されるのも当然で

あろう。まず身内からと思、娘の長男に指導したところ娘の反発にあう始末で、さすがに肩身が狭い。

このようにあの恰好をだらしなないとおよそ思わない感覚が幅広く定着している状況下では、ひとまず自分なりの身だしなみ感覚を堅持、その上でTPOに応じて、新旧の着こなしを適宜使い分けるといった柔軟な対応が求められるに違いない。

それにしても、このような「型なし社会」への移行を前に戸惑うのは、時代の変化に乗り遅れる老人の杞憂と一蹴されるのだろうか。なにしろ「やばい」という言葉が何と若者では素晴らしいという意味でも使用される時代であるのだから…。

(編集委員)

佐倉の点二つ

カレッジ4年生にして初めて『なかま』への原稿用紙を渡された。書き手は数多くいるだろうにと思いつつも、最近見学した二カ所について書いてみようと思う。

一つ目は塚本美術館。20年前佐倉に越して来たばかりの頃、知人と入ってみた。受付で「あなた方は本当に見たいですか」と問われ、どぎまぎした事を今でも鮮明に覚えている。緊張しながら来館者帳に記入、2人目であった。

昭和40年東京銀座に「日本刀美術館」として、初代館長故塚本素山の依頼で酒井繁正刀匠により開設され、千葉そして佐倉に移設されたものである。常設として作刀工程が写真と実物見本で示され、平常2〜3カ月毎に刀身・外装・刀装具等400点の中から20点程展示されるといふ。

刀剣には知識もなく見学す

る機会もなかったが、興味を引いたのは刃文で、私好みは「来派」であった。私の愚問に「堀田家は所謂名刀はお持ちでなかった」との返事であった。

二つ目は、道を隔てた斜め向かいの木村屋の蔵と伝承古美術。こちらも20年振りである。明治15年銀座木村屋3号店として創業。歩兵五十七連隊に非常食やパンを納入する御用達であった。蔵は、江戸時代後半に油屋が建てたものを、初代鶴澤英三郎が買取り今日まで営業を続けている。

蔵の入口に本膳入箱、江戸時代の大皿・染付け・水差・茶碗等が並び、蓑虫のバッグもあつた。ケースには亀のコレクションも。2階の天井の梁も立派。火鉢・十二支の土鈴・高札・壺・人形等懐かしさを覚えた。まさに歴史の町である。

(千成 大場 博子)

地域の一員として

最近、祖母が「子供笑うな、来た道じゃ。年寄り笑うな、行く道じゃ」と言っていたのを思い出す。後半部分が身に沁みる年代になったからだろ。同じようにTVや雑誌で「終活」という言葉を見聞きする。生き方と同じように終

え方も大事という考え方には共感できるので、少しずつ情報収集もするようになった。

折しも今年の初めに地域にオーブンした「有料老人ホーム」の内覧会があつたので早速見学に出かけてみた。プライバシーの重視（基本は個室）、家族とのつながりの維持（家族用の食堂）、現役時代の趣味の継続（料理やガーデニングのできる場所）など、豊かな老後を過ごすための配慮が行き届いていた。

真新しい施設の隅に置かれた一台の折り畳み式の手椅子が目にとまった。そういえば

市民カレッジの先輩が、手椅子の修理をされているという話を思い出したのだ。こうした介護施設も、開発は営利団体が行うにしても単体で運営していくには限界があるだろう。地域の元気な人間が無理のない範囲で細かなサポートをしていけば、さらに豊かな事業になって、地域としての魅力も増していくはずだ。

そう考えると、自分も元氣なうちは、終の棲家にいる方々のお役に立てることもあるかもしれない。聞き上手なら話し相手、動物が好きならアニマルセラピーの補助、修理の技術があるならメンテナンスの応援と様々な協力の形が浮かんだ。縁があつて住み着いたこの街の一員として、微力でもできることを考えるきっかけになった一日だった。

(ユーカリが丘 布施 鉄男)

食改推進員の活動に

参加して最近思うこと

私は平成25年から佐倉市健康増進課が主管部署として進めている食生活改善推進員の講習会を受講して後、推進員として委嘱されボランティア活動に参加しています。

食生活改善推進員は、健康増進課が担当する市民の健康の維持・向上に協力する活動であります。基本は市が定めている『健康さくら21』で目指す「生活習慣病（一次予防）を重視した健康づくり」と「健やかな親子づくり」の推進です。対象は乳幼児から高齢者までの市民全体です。

その中の目標のひとつに「健康寿命の延伸」があります。

私は「食の領域の分野」で社会に参加してきた一人ですが、「健康寿命」という言葉は広くは使われていませんでした。近年になり多くの人に浸透してきたと思います。

食の領域での社会の関心事を振り返って見ると大きく変化しています。時系列にみると食料の確保（昭和20年代）

↓カロリー（30年代）↓栄養（40年代）↓健康（50年代）↓美味しさ・鮮度（60年代）↓安全・安心（平成元々〜20年）↓健康寿命（20年代）と言えます。今までは「平均寿命」をベースに健康が語られました。近年は「健康寿命」をベースに語られる様になりました。

医学・栄養学で言われる基準も変化しています。例えば血圧の基準値、コレステロールの基準値、塩分摂取量等です。

しかも最近では「高齢者の低栄養化」についても言われています。結局は自分の健康は食事のバランスを考えながら、運動、社会活動への参加等を通して自分を守ることが大切なのかという思いです。

（染井野 松村 靖）

下町糸ちゃん

言いたい放題

昨今は

マジ？受けるで すむ会話
それって超やばいんですけど

スマートフォン

指をすべらせ めくるページ
行間を読む等 死語の技

今時の

若者なんて 言うなかれ
いつの時代も 若者NOW

確かめて

振り込む前に 確かめて
家族の病 かからぬように

確かめて

皆の税金 使う前
競技場やら 何やらかやら

恥ずかしい

羞恥心は どこいった
教授 校長 警察官

車いす

押す人乗る人 高齢者
平均寿命に 健康寿命

いつまでも

やまない雨は ないけれど
爪あと残す 自然の猛威

パソコンに

取り組んだのは 良いけれど
驚くばかり パソコン用語

昨年の

種がこぼれた 朝顔は
縦横無尽に 咲きみだれ

夕やみに

流れ近づく 豆腐屋の
ラッパ懐かし 路地裏浮かぶ

お宅さん

どなたさんかと 聞かれても
こちらもそろそろ どなたで
しょう

（上座 岩井 糸子）

12月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

さくら道

10月18日、佐倉市民音楽ホールにて、紺野美沙子さんの朗読座に、妻がチケットを購入していたので2人で出かけた。

自分自身50数年ぶりに直接鶴の恩返しのお知らせを聞いた。懐かしかった。人間は感謝を忘れてはならないし、どんなことがあっても約束を破ってはならない。破ったらそ

こで全て終る。

取り返しがつかない。半世紀が経ても変わらない道理である。

本日の朗読を聞いて、自身、恩を返せない方が大勢いるが、過去を振り返ることが出来ない分は、これから行動するボランティア活動をする事で少しでも返していきたい。本日は感謝をしなればいけないとの発見を得た。

（白濱 敏則）

あとがき

あつという間に、今年も師走になりました。年末は、大掃除や新年を迎える準備などで大忙しです。

私は今年の新学期から、本紙の編集委員に選出され不安でしたが、今は皆様からの投稿を楽しみにして、編集に携わっています。

今年の10月16～18日に、志津公民館祭が開催されました。この公民館が建て替えられる

ので、ここでは最後の開催となりました。多くのサークルが、活動成果の発表や展示を行い、盛大に終了しました。

我が家では、春に孫の初誕生祝いと初桃の節句、秋には、七五三とめでたい事が続きました。成長が楽しみです。

22日は「冬至」です。この日に、かぼちゃを食べて柚子湯に入ると、無病息災で過ごせると言われています。来年も健康であります様に！

（櫻田 弘美）